

一般社団法人



～確かな品を長く側に～

# 新しい年を楽しむ 展示会

日々を豊かに彩る

12月26日～令和6年1月28日

彩遊の号 No.49

(一社)愛海詩  
会報

令和5年12月15日発行

編集発行人／一般社団法人愛海詩  
佐藤 睦子

〒064-0821

札幌市中央区北1条西28丁目2番17号

TEL・FAX／(011)613-1112

WEBSITE

https://i-emishi.com/

E-mail:issya@emishi-s.com

## 「新しい年の微明」

北の街真冬日の日重ねに、シュールベルトの冬の旅より、ドヴォルザークの「新世界」の方が似合っていると思ってしまう。そう、凍えるような冬の中にあっても北海道の人々には、開拓者の魂が宿っているのだ。

師走の月間カレンダーがあと一枚を残すだけとなり、今年一年を振り返りますと、数珠玉のように思いは繋がって行きます。皆さまにとって、令和五年はどのような年でありましたでしょうか。

気をつけながらではございますが、コロナ禍に開放された年でありました。そしてまた、コロナ禍以前とは違う動きがあり、世情の流れの中の渦は混沌とし、ミニマムに強化されています。しかし、その流れの中に確かに光は見え隠れしており、その光を見失わないよう、進んで行くのが肝要かと存じます。

今年、令和五年、ギャラリー愛海詩は二十五周年を迎え、一般社団法人愛海詩を設立致しました。正に大きな節目の年でありましたが、今まで以上に確かな文化を紹介し、楽しみ、語り合いたく思います。

今年(一社)愛海詩の企画、二十五周年記念行事では、生物学者・福岡伸一様と徳川記念財団理事長・徳川家広様にお話しを頂きました。また、文化と出会いの灯りをとす会「MO…佳い会」は馬場聡様の「巨力」で岩田幸治様を迎えてお話ししました。この二つの企画は好評を博し、皆さまと共に佳き時間を共有できました。私共の仕事は丁寧な彫刻を創るようでもありますが、美しい陰翳を見せて刻まれて行くような仕事であり、一朝一夕でできる仕事ではありません。心と心の繋いで行く事、仕事の上で変えてはならぬものと、変えて行くべき事、どちらも大切なのですが、変えてはならないところに、より以上の難しさがある仕事です。文化的働きは、想像力と気付きと想いを致す心の働きが大切です。(一社)愛海詩が今後その事を伝えて行く一助になります。

令和六年、(一社)愛海詩がどのような景色を皆さまにご紹介できるか、理事達と共に励んで参ります。令和五年の日々、令和六年の新しい年が、愛海詩の会の会員、皆さま、職人、作家にとって、佳き年でありませう、心より祈念申し上げます。

(佐藤 睦子)



ギャラリー愛海詩25周年、(一社)愛海詩設立記念日の直会参加者の方々。皆さま、盛り上がりまして、楽しい一時でございました。各々交流も活発にされ、はじけるような笑顔が印象的です。大切な出会いと学びの時を企画させていただきました。

## 一般社団法人愛海詩・会員募集のご案内

### ●● 愛海詩の思い Corporate Identity ●●

- ◆ 文化的働きを大切に、北海道に貢献する。
- ◆ 素晴らしい職人、作家の技と心を応援する。
- ◆ 一人一人の生活が心豊かになるよう、各々の佳き出会いと学びを大切に。

一般社団法人愛海詩は上記3つの思いを大切にその活動を進めて参ります。北海道においての文化の輪を広げ、繋いで行きます。当社団法人の思い、活動等にご賛同いただき、賛助会員、特別会員、法人会員、いずれかにご加入いただきますよう、ご案内申し上げます。

年会費	会員特典
・賛助会員:1口 1万円 ・法人会員:1口 5万円	・会報の配布 ・会費半額の作品購入チケット配布 ・イベントの会員割引 ・その他優待あり
・特別会員:3万円以上	◆ 各 複数口可

お問い合わせ、ご連絡等は下記「一般社団法人愛海詩」までお寄せ下さい。  
「一般社団法人愛海詩ご連絡先」 〒064-0821 札幌市中央区北1条西28丁目2-17  
TEL/FAX:011-613-1112 E-mail:issya@emishi-s.com

只今、ギャラリー愛海詩の会員が順次、一般社団法人愛海詩の会員へ移行されておられます。移行お忘れ、変わらず愛海詩をお支えなさろうと思われたり、新たに入会されたい方々など、ご不明な点などございましたらあわせて左記「一般社団法人愛海詩」までご連絡下さいませ。

今後共、北海道の文化への貢献を、さまざまな企画などを通して取り組んで参ります。

また、一般社団法人愛海詩はご寄付も受け賜っております。会費、ご寄付共に会員のために有効に使わせていただきます。

古称「愛瀾詩」は北海道という意味がございます。愛海詩は北海道を大切にしよう、本物の文化を伝えようと、25年前に創立いたしました。



令和5年、「MO…佳い会」文化と出会いの灯りをとす会の参加者の皆さま。お話しテーマは「青年経済人から見た北海道の未来」、講師は岩田幸治様です。北海道の未来は明るい…と締め括られました。時間が足りない、あつという間の有意義なひと時でした。



菊之好作・金糸クラッチバッグ  
(たて12cm×横30cm×マチ5cm)

金と銀の市松と黒色の中の織り、何ひとつ忽せにしない菊之好の職人の技が光ります。他に手に入れることのできない菊之好の逸品です。チェーンは取納することもできますがショルダーとしても使えます。



陶楽作・抹茶盤 雲龍  
(口径12.0cm×高さ7.8cm)

令和6年の干支である龍に因み、どこかユーモラスな龍の顔が親近感と微笑を誘います。回りに散らした金彩と織部の軸が円相の中でやわらかさを醸す抹茶盤です。



一如作・抹茶盤 朝日  
(口径12.5cm×高さ7.5cm)

清水焼の骨髄頂と言える美しい色合いの抹茶盤です。正面の朝日の金彩、鶴の堆白線文、職人の持てる技とセンスが伝わって来ます。寿ぎの一服をいただくに相応しい一皿です。



瑞光作 酒器揃 鯛  
(徳利・たて13cm×胸6cm/ぐい呑・口径6.8cm×高さ4.5cm)

波に跳ねる鯛を生き生きと映し出しています。お目出鯛時に使いたい器です。ぐい呑の形のゆらぎが手に優しい。



四方皿・鳥獣戯画  
(たて13.5cm×横13.5cm)

ケーキを乗せたり、取り皿にしたり、遊ぶ動物達は人間的。上の四方皿3点グラデーションで深みを出しています。使わない時は飾り皿としても一幅の絵になります。



陶板画・南天  
(たて41.3cm×横38cm (額も含む))

南天は難を転ずるにつながら、吉祥の灯でもあります。バラ色の布のまわりに、白銀のグラデーションと南天の実の黄色が品良くまとまっています。その場を明るくしてくれる陶板画です。



北哉作 イッチン松竹梅湯呑、飲碗・輪島塗 金彩箸と箸置  
(右側湯呑のサイズ口径12cm×高さ6.5cm)

毎日使うものだからちょっと良い作品を使いたい。陶の器はイッチン技法、金彩で松竹梅を丁寧に書き込んでいます。縁起の良い作品群です。



招き猫 左手あげ、右手あげ  
(横約10cm×高さ約16.5cm)

福を呼ぶと言われる招き猫、見ていだけで幸せになりそうな表情、形です。白、赤、青黒、首輪に金、色使いが品よくまとまっています。回りを和やかにすること、間違いありません。

### ◆ お誘い ◆

#### 文化を語る会・Vol 3

新しい年を迎えるにあたり、ミニ新年会もかねて、作家達の作品を見ながら、日本、北海道の文化を語りたいと思います。忌憚のないご意見、お考え、思いなどを聞かせ下さい。どなたでも参加できる楽しい会です。先着5名様です。ギャラリー愛海詩にご連絡、ご予約下さい。

日時 令和6年1月20日(土)  
午後1時30分から午後3時まで

参加費 4,000円  
(お茶、お菓子、お土産付き)

#### 木曜而今ラジオ番組のお知らせ

毎週木曜日、FMラジオカロス札幌78.1MHz、午前11時からの約1時間、ギャラリー愛海詩の佐藤が生放送させていただきます。文化を伝える、本物の手仕事を応援する番組です。(土曜日午前11時から再放送)どうぞお聞き下さい。(サイマルラジオでも聞けます) 21日(木)11時からPLAZA総合事務所札幌所長でもある、弁護士馬場聡氏が出演下さいます。是非お聞き下さいませ。